



NGO を支援する募金  
サイトを運営しています。



JANICはMDGsの達成に  
向けて活動しています。



これは、JANICの「アカ  
ウンタビリティセルフ  
チェック 2008」マーク  
です。JANICのアカウ  
ンタビリティ基準の4  
分野(組織運営・事業  
実施・会計・情報公開)  
について当団体が適  
切に自己審査したこ  
を示しています。

### JANIC協力会員募集中!

JANICは、会員として支援して下さる方を随時  
募集しています。入会いただくとNGO関連情報  
を得られるだけでなく、様々な学びの機会をご利用  
いただけます。

|          |                    |                    |
|----------|--------------------|--------------------|
| ●年会費(一口) | ・学生協力会員<br>7,000円  | ・団体協力会員<br>30,000円 |
|          | ・個人協力会員<br>10,000円 | ・企業協力会員<br>50,000円 |

#### ●郵便振替で会費をお支払いの場合

口座番号:00110-9-667050

加入者名:国際協力NGOセンター

#### ●銀行振込で会費をお支払いの場合

三井住友銀行 神田支店(店番号:219)

普通預金口座番号:2686315

口座名:トクヒ国際協力NGOセンター会費口

## 2010年度 年次報告書



特定非営利活動法人  
国際協力NGOセンター(JANIC)

〒169-0051  
東京都新宿区西早稲田2-3-18  
アバコビル5F

TEL : 03-5292-2911  
FAX : 03-5292-2912  
URL : <http://www.janic.org/>  
E-mail : [global-citizen@janic.org](mailto:global-citizen@janic.org)

開所時間 月~金: 9:30~17:30  
※土日・祝祭日休み

- 東京メトロ東西線  
早稲田駅から徒歩5分
- 東京メトロ副都心線  
西早稲田駅から徒歩8分



地球 × 未来、あなたと今できること。

NGOを支援するNGO  
国際協力NGOセンター(JANIC)

Japan NGO Center for International Cooperation

# 1. 理事長ご挨拶

## 確実な成長を目指して

2010年度がまもなく終わる3月11日、東北地方を中心に起きた地震と大津波、そして福島原発事故では多くの方が被災されました。心よりお見舞い申し上げます。

多くの個人や団体が東日本大震災の被災者救援を困難な状況の中で始め、そのまま夢中で活動をする中で2010年度が終わりました。JANIC正会員の96団体中、30数団体がこの活動に関わり、現在も大半が継続中です。

国内の災害にこのように多くのNGOが迅速に立ち上がり、それなりの規模で活動を行ったのは初の出来事です。この背景には、いくつかの団体が普段から国内災害に備えていたこと、そして緊急救援のための資金の用意があったことがあります。しかし初めてでかつ大規模であったがゆえに、他の関係諸団体からの認識、それらとの役割分担や協調にはいくつか課題が残っています。今後のことを考えると、今年度にごこうした課題を前向きに調整しておくことが必要に思えます。

私たちはG8洞爺湖サミットがあった2008年度を、NGOの「アドボカシー元年」と呼びました。それから2年後の2010年度、詳しくは本文で報告したように、政府機関や政治家との対話、国際的な開発援助を巡る議論への参加、MDGsキャンペーンやそのためのアドボカシーなどをやり遂げる事ができました。しかし、やるべきことはもっともっとあるので、歯がゆく感じたことも何度かありました。2011年度はこうした動きをさらに強化していきたいと願っています。

今年度より、わかり易い年次報告書を目指して体裁を大幅に変更しました。2010年度のJANICの諸活動、それらによる達成点と今後の展望などをより多くの方に理解して頂き、皆様からご助言やご助力を頂き、今後の一層の進歩成長に結び付けたいと願ってのことです。よろしくお願ひ申し上げます。

特定非営利活動法人 国際協力NGOセンター (JANIC)  
理事長



## 目次

|                                           |       |
|-------------------------------------------|-------|
| 1. 理事長ご挨拶                                 | 2     |
| 2. 理念・行動指針                                | 3     |
| 3. 事業概要報告                                 | 4     |
| (事業報告) 3-1 地球規模の課題や ODA 政策に関する調査活動        | 5     |
| 3-2 NGO の理解促進と他セクターとの連携                   | 6-7   |
| 3-3 NGO の能力強化と社会的責任の向上                    | 8     |
| 3-4 共通                                    | 9     |
| 4. (トピックス) 4-1 世界の貧困問題と MDGs 達成のためのキャンペーン | 10    |
| 4-2 東日本大震災に関する NGO 支援                     | 11    |
| 5. (会計報告) 貸借対照表・正味財産増減計算書・収支計算書           | 12-13 |
| 6. 役員・事務局体制                               | 14    |
| 7. 正会員一覧                                  | 15    |

# 2. 理念・行動指針

## JANICのビジョン (理念)

平和で公正な地球市民社会の実現に貢献します。

## JANICのミッション (使命)

人々の貧困からの脱却、自立的発展、基本的人権の擁護、対立・紛争の解決、地球環境の保全等に向けて、国際協力を行う日本の市民組織 (NGO)の活動の促進および強化を図ります。

## NGO行動指針

私たちが住む地球社会は、相互依存を強めるとともに、貧困、飢餓、難民、過剰消費、環境破壊、人権侵害、性差別など、様々な課題を抱えています。市民の主体的・自発的な参加に支えられて国際協力に携わる私たち市民組織 (NGO) は、地球的な視野に立って、そうした国境を越える問題に、非政府、非営利の立場から取り組んできました。ここに、賛同する私たちNGOは、世界的にも国内的にも高まっている私たちNGOへの期待に応え、社会的な責任と役割を果たすために、互いに協力しつつ、次のような指針に沿って自らを律し、行動することを表明します。

### ①自立への協力

途上国の人々をはじめ、特に社会的に弱い立場に置かれた人々が、自らの潜在力を引き出し、依存心を強めることなく自活・自立することができるよう協力します。

### ②対等なパートナーシップ

途上国などの人々やNGOと対等なパートナーシップを確立し、互いの価値観や文化を尊重しつつ、自由な意見や情報の交換を行います。

### ③地球市民学習

途上国の人々が直面する問題には、先進国に住む私たちにも責任があることを認識し、南北問題など地球規模の問題についての理解を深め、自らの生活のあり方や意識を見直すために、地球市民としての学習を進めます。

### ④政策提言

政府・地方自治体や企業をはじめ、広く社会に対して、人間の尊厳が保障される持続可能な社会の実現に向けて、建設的な提言を行います。

### ⑤開かれた組織運営

広く市民の参加を求め、民主的な組織運営を行うとともに、自らの理念、目的、活動内容、活動結果などについて情報を公開します。

### ⑥厳正な資金管理

市民の善意に基づく寄付金や公的な資金を厳正に管理するとともに、効果的に活用し、その用途を適正に報告します。

### 3. 事業概要報告

第2期3ヵ年計画の1年目である2010年度は、活動の3本柱である、提言活動、市民への啓発と他セクターとの連携、NGOの能力強化と信頼性の向上に関して、着実な進展がありました。

#### 1. 地球規模の課題やODA政策に関する調査・提言活動

NGOと外務省、JICAとの協議の場を設定することによって、ODA見直しに関してNGOの意見を反映させることができました。また、ODAの援助効果、CSOの開発効果について日本国内での議論を促進しました。さらに、名古屋で開催された生物多様性COP10に向けて環境NGO、人権NGOと協働し、「生物多様性と開発」作業部会を立ち上げて議論の場を作り、提言書の作成などを行いました。

#### 2. NGOの理解促進と他セクターとの連携

多くのNGOや関係機関と連携しながらMDGs2015キャンペーンを実施し、ウェブサイトやワークショップなど様々なツールの開発、国際シンポジウムやセミナーの開催などMDGsについて広くアピールしましたが、市民に対する広がりには十分はなく、課題が残りました。しかし、他セクターとの連携については、BOPビジネスに対する社会の関心の高まりを背景に、CSR推進NGOネットワークを通じた企業との連携が進展しました。

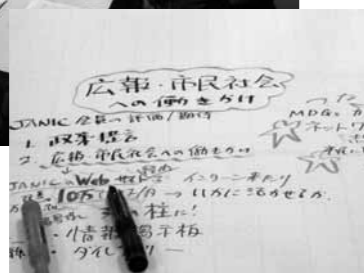
#### 3. NGOの能力強化と社会的責任の向上

ASC2008が非営利組織の組織評価として注目されましたが、実施団体の増加については目標15団体に対して5団体にとどまりました。また、新たに「NGOの組織強化・管理集中講座」を立ち上げました。

3月11日に起きた東日本大震災に際して、救援活動を開始したNGOを支援するためにタスクチームを立ち上げ、募金活動、情報収集と発信、NGO間及び他セクターとの連絡調整、提言活動などを開始しました。



正会員の集い



CSO 開発効果のナショナルコンサルテーション



東日本大震災現地調査

### 3-1-1 社会を変えるための政策提言と調査活動

#### 2010年度の重点目標

- ・日本の政府開発援助（ODA）、政府とNGOの連携、貧困や環境などグローバル・イシューに関して、日本のNGOの提言活動を促進するとともに、JANICが提言を行う主体としての能力を高め、質の高い政策対話を実施します。
- ・生物多様性COP10の機会を活用し、国際協力NGOが積極的に関わっていくような場の提供を行うとともに、環境NGOとの連携強化を図ります。

#### 2010年度の振り返り

2010年度は、民主党政権下でのODAのあり方検討や政府とNGOの連携促進のプロセス、MDGs国連首脳会合（9月）や生物多様性COP10（10月）などの会議において提言活動を活発に展開しました。JANICはこれらのプロセスや会議の中で主体的な提言を行うとともに、国際協力NGOが提言活動を行えるような場作りの役割を果たしました。

2010年度は政務三役などハイレベルの政府関係者と質の高い政策対話を数多く行った点が評価できます。また、ODAのあり方の検討におけるミレニアム開発目標（MDGs）の重視や、NGOと政府の連携強化等について、NGOの提言内容が一部組み込まれた点は大きな成果です。さらに、日本NGO連携無償資金協力や草の根・人間の安全保障無償資金協力など国内外のNGOが使いやすいスキームの制度改善において、大きな前進がありました。

また調査活動においては、従来実施してきている日本の国際協力NGOの活動・運営及び職員の待遇・福利厚生等に関する調査・分析を行い、「NGOデータブック2011」を4年ぶりに発行しました。

2011年度は、第4回援助効果向上に関するハイレベルフォーラムに向けて、より一層ODAの援助効果の向上に向けたアドボカシー活動を強化する必要があります。また、2010年度に行ったCSO開発効果のナショナルコンサルテーションの結果を踏まえ、日本のNGOの活動の質の向上に寄与するよう、海外NGOとも連携してフォローアップを行っていきます。



NGO 外務省定期協議会の様子



約240団体の調査・分析

## 3-2-1 100万人の市民がNGOを好きになるための広報活動

### 2010年度の重点目標

2010年度は、「国際協力に関心はあるがまだ行動に移せていない人」を主なターゲットに「国際協力NGOの理解者のパイを広げること」を重点目標として活動を行います。ウェブサイトを変更し、メールマガジンやソーシャル・メディア（ツイッター、ブログ、フェイスブック）も積極的に活用して、NGOの基本情報や国際協力の意義、MDGsに関する情報などを幅広く発信します。また、機関誌『シナジー』の発行や、グローバルフェスタ、国際協力キャリアフェアなどのイベントにも出展して、多様な機会を通じて国際協力NGOの理解者を増やします。

### 2010年度の振り返り

- (1) 「NGOダイレクトリー」や「JANICを応援しよう」ページの強化・改善を行ったことで、JANICウェブサイトがより見やすく、使い勝手のよいものになりました。その結果、ウェブサイトへの訪問者数が月15万アクセス（75万ページビュー）を超えました。
- (2) JICAアドバイザー派遣制度を活用して、広報力強化・支援者拡大施策を実施しました。合同会社コース・アクション代表の菅文彦氏にアドバイザーになっていただき、広報活動全般の見直しや個人協力会員のニーズ分析などを行いました。
- (3) 2011年3月号にて『シナジー』のリニューアルを実施し、これまでの支援者に加えて若者や女性、社会的課題に関心の高い層を意識した紙面作りを行いました。
- (4) 20周年を迎えた「グローバルフェスタJAPAN2010」の主催団体の一つとして、出展NGOのとりまとめやNGOプログラムの企画・実施などを行い、来場者数（10万5千人）、NGO出展団体数（176団体）共に過去最大を記録しました。
- (5) JICA、UNDPと連携して「なんとかしなきゃ！プロジェクト」を立ち上げ、NGOの情報発信の新たな場の確保を行い、JANICウェブサイトとの連動を図りました。



リニューアルされたウェブ版「NGOダイレクトリー」



リニューアルされた『シナジー』



20周年を迎えた「グローバルフェスタ JAPAN」

## 3-2-2 他セクターとNGOとの連携促進

### 2010年度の重点目標

2010年度は、企業、自治体、労働組合を中心とした他セクターとNGOとの連携促進に取り組みます。共通の目標をシェアした上で互いの強みを活かし弱みを補完する形での連携を促進します。企業との連携は「CSR推進NGOネットワーク」、労働組合との連携は「NGO-労働組合国際協働フォーラム」、自治体との連携は「市民国際プラザ」をそれぞれのプラットフォームとして活動を行います。とりわけ企業との連携では、JANICと個別企業との連携にも積極的に取り組み、JANICの企業協力会員拡大やファンドレイジングにもつなげていきます。

### 2010年度の振り返り

- (1) 企業との連携は、3年目となる「CSR推進NGOネットワーク」の活動を拡大・発展させることができました。企業メンバー17社、NGOメンバー27団体の参加が得られ、「企業とNGOの連携ガイドライン」の普及やISO26000やBOPビジネス、環境と貧困のつながりといったタイムリーな 이슈を定例会やシンポジウム、事例調査などで取り上げました。2月に東京で開催したCSRシンポジウムでは、JICA、経産省、1%（ワンパーセント）クラブ、グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワークからもご協力をいただくことができました。
- (2) 自治体との連携は、「市民国際プラザ」の運営業務の中で、連続勉強会を新たに立ち上げました。また、地方での自治体とNGOの連携促進のためのセミナーとワークショップを、地域ネットワークNGOと連携して仙台と大阪で開催しました。
- (3) 労働組合との連携は、「NGO-労働組合国際協働フォーラム」の枠組みにおいて、全体会、連携事例報告会、合同企画委員会、各種イベント開催などを通してNGOと労組の連携促進を行いました。また、本フォーラムの中でMDGs2015キャンペーンにも主体的に取り組むことが決定されました。



2010年度 CSR 推進 NGO ネットワークのメンバー



NGO-労働組合国際協働フォーラム連携事例報告会



市民国際プラザ企画展

## 3-3 NGOの能力強化と社会的責任の向上

### 2010年度の重点目標

JANICがNGOのネットワークとして、NGOの社会的な影響力の拡大や信用性の向上を推進していく基盤固めと共に、NGOの信用性の向上や個々のNGOの能力と組織面での強化にかかわる取り組みを行います。また、他のネットワークNGOとの経営課題に関する経験共有を進め、JANIC自体の組織強化にも取り組みます。

### 2010年度の振り返り

- (1) NGOのアカウントビリティについては、NGOサポート募金加入時のアカウントビリティ・セルフチェック2008（ASC2008）取得条件化と共に、キット類の改定や新規立会人研修など、ASC2008に関する体制整備を進めました。実施数の目標値の達成こそはできませんでしたが、市民セクター全国会議2010等場でASC2008を実践事例として紹介することができました。
- (2) 研修事業としては、立正佼成会一食平和基金のご支援をいただき、NGO関係者とのニーズ確認ワークショップを経て「NGOの組織運営・管理集中講座」を開始すると同時に、正会員の協力を得た初の試みとしてNGOの職場におけるメンタルヘルスに関するアンケート調査を行い状況把握に努めました。複数年計画で実施してきた「国際協力NGO次世代リーダー育成事業」（庭野平和財団との共同事業）については、国際開発センターの協力を得て評価を行いました。組織運営のノウハウ習得への根強いニーズの存在と、学びの継続的な実践に向けた人件費の助成を受けられる本事業への高い評価が確認できました。
- (3) 正会員が主体的に関心テーマについて学習や協働を行うことができる仕組みとして、「正会員ワーキンググループ」の制度設計を正会員有志の協力も得て行い、現在1件活動しています。また、他の地域のネットワークNGOと協働で、特に資金に注目したNGO研究会（外務省受託事業）を開催し、JANIC自体の組織強化への活かし方を検討することができました。

東日本大震災でのNGO等の市民団体の活躍に注目が集まる中、今後もASC2008も含めたNGOのアカウントビリティについての議論と実践の深化、個々の団体にとって有益な組織強化の取り組みを継続していくことが求められています。

## 3-4-1 JANIC及び会員NGOの自己財源確保に向けた取り組み

### 2010年度の重点目標

第2期3カ年計画では、ネットワークの拡大を通じ多様な財源を確保することで、JANIC及び会員NGOの自己財源の更なる拡充と安定を目指しています。初年度では、NGOサポート募金を最重要資金獲得ツールとして位置付けた上で、会員制度などのアプローチ強化と自己財源の強化を目指します。

### 2010年度の振り返り

- (1) 正会員については、NGOのネットワークとしての拡充に向け、会員規定中、第3条（正会員の要件と入会審査時の視点の明確化）と第10条（正会員の会費区分の細分化）を改定しました。正会員向けアンケートでは、「政策提言活動」がJANIC事業として最も評価され、かつ期待されることが分かりました。正会員数は、90団体から96団体まで増加しました。
- (2) 協力会員については、企業協力会員はCSR推進NGOネットワークの活動とも連動し会員数を伸ばし、団体協力会員と個人協力会員は、現状維持の状況です。
- (3) 「NGOサポート募金」に関しては、「パキスタン洪水」（2010年8月）他の緊急災害募金の速やかな立ち上げ、ヤマダ電機インクカートリッジ回収キャンペーンを実施し、多くのご支援をいただきました。特に、「東日本大震災活動支援まとめ募金」（2011年3月）に関しては、初の取り組みとして広報文や決済画面の英文化を行いました。その結果、国外分も含めて、過去最高の募金額（2,863万円）を得ることができました。
- (4) JICAアドバイザー派遣制度を活用し、主に個人協力会員制度の見直しとJANIC単体寄付を募るための方針と計画について議論を行った結果、「JANIC応援募金」の創設や複数の募金キャンペーンの実施がされ、新たなご支援につながりました。

今後もJANICへの評価や期待を踏まえつつ、自己財源確保に向けた各種JANIC自主事業の内容面での充実と共に、潜在的な支援層へのアプローチ強化に取り組んでいくことが求められています。

## 3-4-2 効率がよく、公正な職場環境づくりおよび共通事業

### 2010年度の重点目標

自己財源の拡充の手段として、認定NPO法人取得と、効率の良い会員・寄付者管理のための新データベース導入を目指します。また、アドバイザー・コミッティの立上げの検討と外務省NGO相談員業務の実施を共通事業の目標とします。

### 2010年度の振り返り

認定NPO法人取得については、2008・2009年度での申請を試み、国税局に2度相談しましたが、年度内の申請を断念しました。認定NPO法人取得、新データベース導入共に2011年度に延期をしました。また、アドバイザー・コミッティの立上げについて人選を理事会で議論しましたが、目的も含めて再度検討をし直すことになりました。NGO相談員業務は、電話、イベント、出張サービス等で約700件の相談対応を行いました。



立正佼成会一食平和基金・JANIC 共催  
「NGO 組織運営・管理集中講座」



2010年度市民セクター全国会議  
組織評価に関するセッションにて、ASC2008を報告



# 5. 会計報告

## 貸借対照表

(2011年3月31日現在)

(単位：円)

|               | 本年          | 前年           | 差額           |
|---------------|-------------|--------------|--------------|
| (資産の部)        | 42,493,129  | 54,593,102   | △ 12,099,973 |
| 流動資産          | 36,636,667  | 53,176,246   | △ 16,539,579 |
| 現金及び預金        | 8,692,623   | 32,128,109   | △ 23,435,486 |
| 売掛金           | 37,452      | 62,602       | △ 25,150     |
| 棚卸資産          | 1,024,141   | 1,223,903    | △ 199,762    |
| 前払金           | 1,800       | 1,800        | 0            |
| 立替金           | 2,886       | 0            | 2,886        |
| 未収入金          | 26,877,765  | 19,732,132   | 7,145,633    |
| 仮払金           | 0           | 27,700       | △ 27,700     |
| 固定資産          | 5,856,462   | 1,416,856    | 4,439,606    |
| 有形固定資産        | 3,272,220   | 0            | 3,272,220    |
| リース資産         | 3,272,220   | 0            | 3,272,220    |
| 無形固定資産        | 2,484,242   | 1,316,856    | 1,167,386    |
| 電話加入権         | 328,384     | 328,384      | 0            |
| ソフトウェア        | 2,155,858   | 988,472      | 1,167,386    |
| 投資その他の資産      | 100,000     | 100,000      | 0            |
| 差入保証金         | 100,000     | 100,000      | 0            |
| 資産合計          | 42,493,129  | 54,593,102   | △ 12,099,973 |
| (負債の部)        | 22,296,873  | 35,509,866   | △ 13,212,993 |
| 流動負債          | 18,355,873  | 35,509,866   | △ 17,153,893 |
| 未払金           | 5,275,785   | 5,532,245    | △ 256,460    |
| 未払法人税等        | 70,000      | 70,000       | 0            |
| 未払消費税等        | 1,042,600   | 1,728,200    | △ 685,600    |
| 前受金           | 2,885,880   | 7,493,049    | △ 4,607,169  |
| 仮受金           | 224,000     | 0            | 224,000      |
| 預り金           | 7,940,147   | 20,686,372   | △ 12,746,225 |
| 未払費用          | 917,561     | 0            | 917,561      |
| 固定負債          | 3,940,900   | 0            | 3,940,900    |
| 長期リース負債       | 3,333,960   | 0            | 3,333,960    |
| 退職給付引当金       | 606,940     | 0            | 606,940      |
| (正味財産の部)      | 20,196,256  | 19,083,236   | 1,113,020    |
| 正味財産          | 20,196,256  | 19,083,236   | 1,113,020    |
| (うち当期正味財産増加額) | (1,113,020) | (△4,682,377) | 5,795,397    |
| 負債及び正味財産合計    | 42,493,129  | 54,593,102   | △ 12,099,973 |

## 正味財産増減計算書

(2010年4月1日から  
2011年3月31日まで)

(単位：円)

| 科目       | 金額        |            |
|----------|-----------|------------|
| (増加の部)   |           |            |
| 資産増加額    |           |            |
| 棚卸資産増加額  | 180,900   |            |
| 棚卸資産受贈額  | 107,561   |            |
| リース資産増加  | 3,704,400 |            |
| 固定資産購入額  | 1,735,146 |            |
| 差入保証金増加額 | 100,000   |            |
| 資産増加額計   |           | 5,828,007  |
| 負債減少額    |           |            |
| リース負債返済額 | 370,440   |            |
| 負債減少額計   |           | 370,440    |
| 増加額合計    |           | 6,198,447  |
| (減少の部)   |           |            |
| 資産減少額    |           |            |
| 当期収支差額   | 621,224   |            |
| 棚卸資産減少額  | 659,803   |            |
| 差入保証金減少額 | 100,000   |            |
| 資産減少額計   |           | 1,381,027  |
| 負債増加額    |           |            |
| リース負債増加額 | 3,704,400 |            |
| 負債増加額計   |           | 3,704,400  |
| 減少額合計    |           | 5,085,427  |
| 正味財産増加額  |           | 1,113,020  |
| 繰越正味財産額  |           | 19,083,236 |
| 正味財産合計額  |           | 20,196,256 |

## 収支計算書

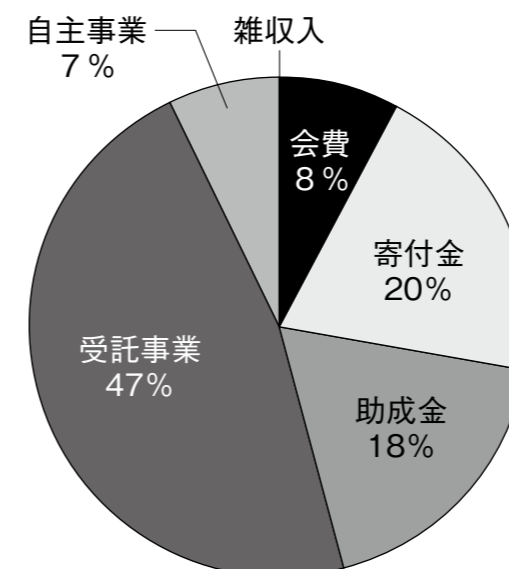
(2010年4月1日から  
2011年3月31日まで)

単位：円

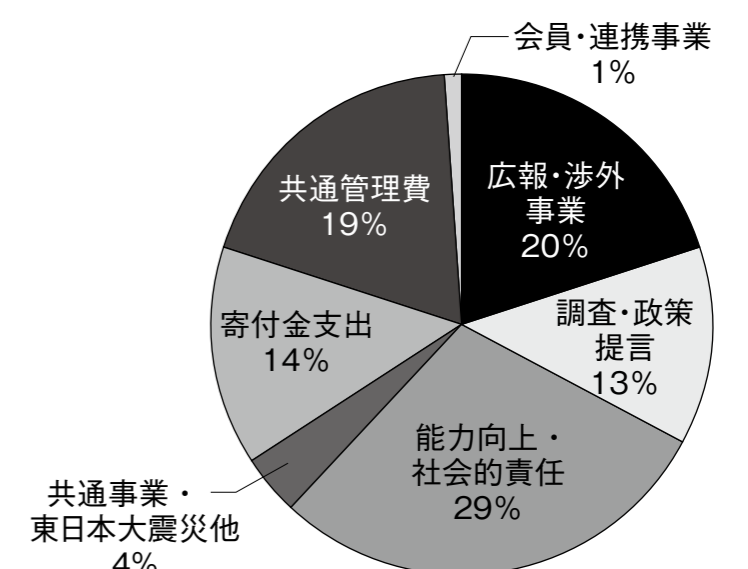
| 科目              | 予算額         | 決算額         | 差額           |
|-----------------|-------------|-------------|--------------|
| I. 経常収入の部       | 162,945,304 | 150,561,180 | △ 12,384,124 |
| 1. 会員・連携事業      | 14,120,000  | 12,243,500  | △ 1,876,500  |
| 2. 広報・渉外事業      | 24,860,640  | 24,128,597  | △ 732,043    |
| 3. 調査・政策提言事業    | 16,923,064  | 18,396,623  | 1,473,559    |
| 4. 能力向上・社会的責任事業 | 55,991,600  | 47,144,371  | △ 8,847,229  |
| 5. 共通事業収入       | 18,280,000  | 17,381,737  | △ 898,263    |
| 6. 寄付金収入        | 31,200,000  | 30,756,809  | △ 443,191    |
| 7. 雑収入          | 1,570,000   | 509,543     | △ 1,060,457  |
| II. 経常支出の部      | 162,934,790 | 149,076,818 | △ 13,857,972 |
| 1. 会員・連携事業      | 922,000     | 1,024,624   | 102,624      |
| 2. 広報・渉外事業      | 30,088,640  | 30,364,363  | 275,723      |
| 3. 調査・政策提言事業    | 17,842,200  | 18,769,614  | 927,414      |
| 4. 能力強化・社会的責任事業 | 54,198,200  | 43,691,844  | △ 10,506,356 |
| 5. 共通事業支出       | 6,244,000   | 6,033,364   | △ 210,636    |
| 6. 東北災害事業*      | 0           | 655,612     | 655,612      |
| 7. 寄附金支出        | 24,330,750  | 20,240,827  | △ 4,089,923  |
| 8. 財政・組織の基盤強化   | 300,000     | 2,010       | △ 297,990    |
| 9. 雑費           | 6,000       | 7,743       | 1,743        |
| 10. 共通管理費       | 29,003,000  | 27,679,877  | △ 1,323,123  |
| 11. 前期退職給付費用    | 0           | 606,940     | 606,940      |
| 経常収支差額          | 10,514      | 1,484,362   | 1,473,848    |
| III. その他資金収入の部  | 0           | 100,000     | 100,000      |
| IV. その他資金支出の部   | 0           | 2,205,586   | 2,205,586    |
| 当期収支差額          | 10,514      | △ 621,224   | △ 631,738    |
| 繰越収支差額          | 16,548,660  | 16,548,660  | 0            |
| 次期繰越収支差額        | 16,559,174  | 15,927,436  | △ 631,738    |

\* 東日本大震災関連

### 2010年度決算 (収入)



### 2010年度決算 (支出)

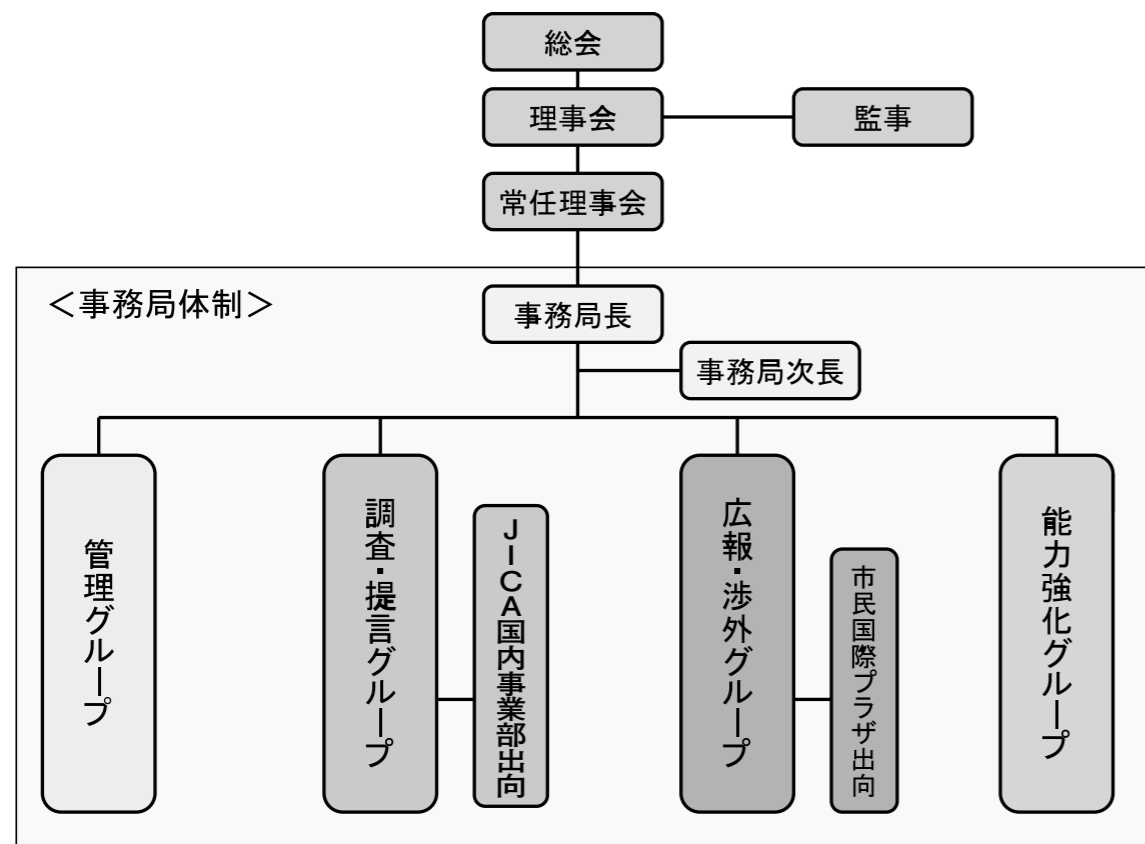


## 6. 役員・事務局体制

特定非営利活動法人 国際協力NGOセンター (JANIC) 2010年度役員

- 【理事長】 大橋 正明 / (特活)シャプラニール=市民による海外協力の会 理事
- 【副理事長】 片山 信彦 / (特活)ワールド・ビジョン・ジャパン 常務理事・事務局長  
 谷山 博史 / (特活)日本国際ボランティアセンター 代表理事  
 岩附 由香 / (特活)ACE 代表
- 【理事】 生澤 千裕 / 日本労働組合総連合会 総合国際局長  
 石井 宏明 / (特活)難民支援協会 事務局次長  
 木山 啓子 / (特活)ジェン 理事・事務局長  
 熊岡 路矢 / 東京大学大学院 客員教授  
 郡司 真弓 / (特活)WE21 ジャパン 政策提言部会長  
 小林 毅 / (特活)チャイルド・ファンド・ジャパン 事務局長  
 新谷 大輔 / (株)三井物産戦略研究所 研究員  
 関 尚士 / (社)シャンティ国際ボランティア会 理事・事務局長  
 高橋 秀行 / (財)ジョイセフ(家族計画国際協力財団) 理事・事務局長補  
 長 宏行 / (財)オイスカ 国際協力部部長  
 古沢 広祐 / 國學院大學 教授  
 山口 誠史 / (特活)国際協力NGOセンター 事務局長  
 渡邊 清孝 / (特活)ハンガー・フリー・ワールド 理事・事務局長
- 【監事】 太田 達男 / (財)公益法人協会 理事長  
 浦田 泉 / いずみ会計事務所 代表
- 【顧問】 伊藤 道雄 / (特活)アジア・コミュニティ・センター 21 代表理事  
 船戸 良隆 / (特活)アジアキリスト教教育基金 専務理事

(2011年3月31日現在 敬称略・50音順)



## 7. JANIC正会員一覧

- (特活)アーシャ=アジアの農民と歩む会\*  
 (特活)ICA 文化事業協会  
 (特活)ACTION  
 (特活)アクセス=共生社会をめざす地球市民の会\*  
 (財)アジア・アフリカ国際奉仕財団  
 (学)アジア学院  
 (特活)アジア日本相互交流センター ICAN  
 (特活)ADRA Japan  
 (特活)ESA アジア教育支援の会  
 (社)アジア協会アジア友の会  
 (特活)アジアキリスト教教育基金  
 (特活)アジア・コミュニティ・センター21\*  
 (特活)APEX  
 (特活)アフリカ日本協議会  
 (特活)アフリカ地域開発市民の会 (Can Do)  
 (特活)アムダ  
 (特活)アーユス仏教国際協力ネットワーク  
 (特活)WE21 ジャパン  
 (特活)ACE  
 エイズ孤児支援NGO・PLAS  
 (特活)エファジャパン  
 (公財)オイスカ  
 (特活)幼い難民を考える会  
 (特活)オックスファム・ジャパン  
 (特活)開発教育協会  
 (特活)かものはしプロジェクト  
 (特活)カラ=西アフリカ農村自立協力会  
 (特活)環境修復保全機構  
 (特活)グッドネーバーズ・ジャパン  
 (公財)ケア・インターナショナル ジャパン  
 (特活)ケアリングフォーザフューチャー・ファンデーション・ジャパン  
 (公財)国際開発救援財団  
 (特活)国際子ども権利センター  
 (特活)国際協力NGO・IV-JAPAN  
 (特活)国際ボランティアセンター山形 (IVY)  
 国際民間援護協議会「メコン基金」  
 (特活)国境なき医師団日本  
 (特活)国境なき子どもたち  
 (特活)金光教平和活動センター  
 (特活)C.P.I. 教育文化交流推進委員会  
 (特活)ジーエルエム・インスティテュート  
 (特活)シェア=国際保健協力市民の会  
 (特活)歯科医学教育国際支援機構 (OISDE)\*  
 障害分野NGO 連絡会 (JANNET)  
 (特活)聖地のこどもを支える会  
 (特活)JHP・学校をつくる会  
 (特活)JEN  
 (特活)シャプラニール=市民による海外協力の会  
 (公社)シャンティ国際ボランティア会  
 (財)ジョイセフ(家族計画国際協力財団)
- (公社)セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン  
 (財)世界宗教者平和会議日本委員会  
 (特活)地球市民の会  
 (特活)地球市民ACT かながわ/TPAK  
 (特活)地球の木  
 (特活)地球の友と歩む会/LIFE  
 (特活)地球緑化センター  
 (特活)チャイルド・ファンド・ジャパン  
 (特活)燈台(アフガン難民救援協力会)  
 (特活)東方科学技術協力会  
 (特活)難民支援協会  
 (特活)難民を助ける会  
 (特活)2050  
 (特活)日本・雲南聯誼協会  
 日本カトリック信徒宣教会  
 (公社)日本キリスト教海外医療協力会  
 (特活)日本国際ボランティアセンター  
 (特活)日本ヒアリングインターナショナル  
 (特活)日本フィリピンボランティア協会  
 (特活)日本紛争予防センター  
 (特活)日本リザルト  
 (特活)熱帯森林保護団体  
 (特活)ノマドインターナショナル  
 (特活)ハーベストタイム\*  
 (特活)ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン  
 (特活)パレスチナ子どものキャンペーン  
 (特活)ハンガー・フリー・ワールド  
 (特活)ピースウィンズ・ジャパン  
 (特活)ヒューマンライツ・ナウ  
 (特活)ヒマラヤ保全協会  
 BAC 仏教救援センター  
 (公財)プラン・ジャパン  
 (特活)フリー・ザ・チルドレン・ジャパン  
 (特活)フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー・JAPAN  
 (特活)フェアトレード・ラベル・ジャパン  
 (特活)ブリッジ エーシア ジャパン  
 緑のサヘル  
 (特活)緑の地球ネットワーク  
 (特活)ミレニアム・プロミス・ジャパン\*  
 (財)民際センター  
 (特活)メドゥサン・デュ・モンド ジャパン(世界の医療団)  
 (特活)ラオスのこども  
 (特活)れんげ国際ボランティア会  
 (特活)ワールド・ビジョン・ジャパン  
 ワールドファミリー基金  
 (特活)ワールドランナーズ・ジャパン

JANIC正会員96 団体(2011年3月現在)

(敬称略・50音順)

\* 2010年度入会

最新情報は、WEB サイトをご参照ください。

<http://www.janic.org/>